



熊本県乳牛改良同志会

会長

西本道靖

皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より同志会活動に対しまして、ご支援・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受けて、各種制限が緩和されたことによって、これまで通りの暮らしが戻りつつあります。

また、酪農業界においては飼料価格、資材価格、燃料価格の高騰に加え、ホルスタイン仔牛、肉用子牛の市場価格下落によって厳しい状況が続いております。

昨年は3月5日に第19回オール九州ブラックアンドホワイトショウ、4月14日～15日に第10回全日本ブラックアンドホワイトショウ並びに2023セントラルジャパンホルスタインショウが静岡県御殿場市で開催され、本県からは未經産牛6頭、経産牛5頭の計11頭を出品いたしました。



熊本県酪農部長連絡協議会

会長

伊豆永芳弘

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より当協議会の活動に対しましてご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、ウクライナ情勢の長期化などを背景に、エネルギーの高騰や円安の進行による物価上昇に伴い、経済情勢は不安定な状況が続きました。一方、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、外出機会の増加やインバウンド需要の回復など経済活動が再開し明るい兆しも見られました。

酪農・乳業を取り巻く情勢は、飼料価格の高止まりや燃料・資材価格の高騰、副産物価格の下落等が続き、8月に飲用向け乳価の再値上げはあったものの、酪農経営は依然厳しい状況が続いています。

出品者並びに応援者も、全国の同志との交流を深めつつ、レベルの高い出品牛を目の当たりにするなど、大変有意義なショウになったと思います。出品者の皆様におかれましては、多忙の中での出品本当にありがとうございました。

また、ショウ以外にも1月25～27日に農水省職員のファームステイ、2月2日には役員による農水省での意見交換会、7月4日の通常総会、10月6日の技術向上研修会（ゲノム検査の利活用について）を行うなどこれまで通りの活動を行えるようになりました。

今年は3月に第20回オール九州ブラックアンドホワイトショウ並びに第47回熊本県ブラックアンドホワイトショウ、11月には第8回九州連合ホルスタイン共進会が開催されます。令和7年秋の全共に向けて準備を進めてまいりたいと思います。

前述しましたように、酪農業界は今なお、厳しい状況が続いております。そのような中、生産基盤の強化に向けた乳牛の改良について、より重視されるべきであると考えております。本同志会としましても会員一同、改良の火を絶やすことなく繋いでいくように活動してまいります。

最後になりましたが、本年も、昨年同様関係各機関の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

本協議会としましては、例年、熊本の酪農経営充実を目標に様々な活動を展開しております。昨年は1月に新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底しつつ、一大消費地である関西圏の視察研修として、らくのうマザーズ関西営業所を訪問し研修会を開催しました。また、酪農専門農協協議会と合同で、組織整備についての意見交換会を開催しました。12月には、熊本県酪農協同組合連合会の大川専務を講師に迎え、「らくのうマザーズ乳業事業」について講演をいただき、国内外での販路拡大への取り組みや今後の重点施策などについて、ご教授いただき見識を広めることができました。

4月に1会員の脱退を受け、会員数は12会員となりましたが、今後も本協議会では、酪農の恒久的な発展と酪農経営の安定を図るため、酪農生産者の一層の団結を目指し、今年もらくのうマザーズ及び各協力組織と連携し、酪農・乳業に係る情報収集や課題解決に向け邁進してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、今後も変わらぬご理解ご協力を賜りますとともに、本年が皆様方にとりまして倅多き良き年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



熊本県酪農ヘルパー利用組合

組合長

生 山 力

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
酪農家の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
旧年中は、本利用組合の事業に対しまして、格別なご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
酪農情勢は、不安定な世界情勢の中、円安の影響により、飼料穀物、肥料、生産資材と燃料価格が高止まりしており、乳価は上昇したものの酪農経営は依然厳しい状況となっています。
このような状況を踏まえ国・県による、価格高騰対策に対する生産者の負担軽減に向けた積極的な支援対策を十分に活かしながら持続的な酪農経営に取り組む一方で、乳製品に関する値上げの影響による買い控えへの対策として、より一層の消費者への理解醸成活動や生乳生産抑制への協力をお願い等、酪農経営にとって予断を許さない状況となりました。
このような中、当利用組合は、組合員の皆様方のご理解、ご支援により、地域に密着した事業として質の高い酪農ヘルパーの育成・指導に自助し、酪農家の周年拘束労働を改善し、定休日を設け魅力ある酪農経営の確立を目指すため、定期的な休日の確保、傷病時発

生時に速やかに対応することで、酪農経営の一助になることを認識し役職員一同努力しているところです。

現在、本利用組合の人員につきましては、本年度1名採用し、現在20名で運営しており、年々厳しさを増す雇用情勢です。要員確保に向けて、県内外で開催される募集イベントへ参加し、“デーリースポット熊本”という応募者にとってイメージしやすい愛称とノベルティを作成することでより来席頂けるような取り組みをしています。また、職員の要望を取り入れるため、本年度は役職員との意見交換、面談を実施するなど、例年以上に積極的に両方向からのコミュニケーションを取り合い、組合全体の改善への意識を高めております。

更に、(一社)酪農ヘルパー全国協会の事業を活用して、中堅酪農ヘルパー職員を対象とした指導力向上研修に参加し、指導力やコミュニケーション力の底上げにより、新人ヘルパーの定着化を促進するとともに職場全体の活性を向上することを目的に2名の職員を派遣するなどの取り組みを計画しております。

当組合に対する申込需要は年々増加傾向にあります。昨年度は特に傷病利用が多く、酪農ヘルパー要員が不足していることからお断りせざるを得ないことも多くあり、大変なご迷惑をお掛けしており心苦しく思う次第です。また、皆様方の近隣にいらっしゃる酪農ヘルパーに興味のある方をぜひ、当組合役員までご紹介頂けると幸いです。

今後も酪農ヘルパー事業の充実を図り、皆様の負託に応えていけるよう努めて参りますので、ご理解の程よろしくお祈いします。

最後に、本年が皆様にとりまして健康第一とした実り多き年でありますように、ご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農専門農協協議会

会長

山 田 政 晴

初春に謹んでお慶びを申し上げます。会員皆様におかれましては、心新たに新年の寿ぎをお迎えのことと拝察致します。

さて、コロナ感染症の5類移行に伴い、社会経済や市民生活が平穏時へと回復しつつも、上向く景気動向のなかでも何某かの不安が流布する一年でした。

酪農乳業界は、猛暑の夏も生乳需給緩和・飲用消費停滞に、ウクライナやガザ地区侵攻の政情不安が頻発し、食糧安全保障の議論や円安、飼料高騰、仔牛相場の下落など、かつてない経営赤字が誘発された年でした。幾度もの乳価改訂の一方で、コストアップ分の農産物価格への反映や価格安定対策の是非も問われつづけた一年でした。

アフターコロナへの今も深刻な影響はもたらされています。担い手の高齢化・減少に加え、生産基盤弱体化がとまりません。依然、消費は停滞したままです。本年は25年ぶりの改正となる、食糧・農業・農村基本法見直しに各界各層の検討がなされ、価格形成の仕組

みや未来を育む展望が期待されるところです。

酪農は消費あつての生産であり消費は営農・投資、継続再生産にも響いてきます。業界を覆う厳しい試練を酪農家も乗り越えていかなければとの思いです。

こうしたなか、本協議会は年度当初の全体会議から酪農組織整備進展への課題を抽出し、会員各位との取り組みや意見交換などを進めてきました。

酪農家を支える組織は、生産現場の支援振興を司る上での重要な命題であるからこそ、調査研究段階から一歩すすめる協議会の設立へと移行させました。

組織整備対策の一環に三重県酪農組織再編の全体研修会を実施するとともに、中央畜産会の迫田常務を招聘し、組合運営の視点や経営的役割から組織整備への活発な意見交換を行う講習会も開催してきました。また、コロナ後の需要回復・生産基盤維持へと当協議会も更なる支援協力を目指すところです。

本年こそ、コロナ禍に痛感した生乳生産の基盤を守ること、また価格安定化の大変さ・重大さを最大限に認識し、その覚悟を活力とし、酪農家一体にて、この危機を乗り越えていこうとする、こうした連帯感のもとに会員皆様との新たな組織活動をすすめていきたいと考えます。

わたしどもの活動が酪農経営・酪農振興の一助となり、そしてまた本年が皆様にとって、より佳き年となりますよう祈念申し上げ、新年にあたっての挨拶と致します。



熊本県乳用牛群検定組合

組合長

山口 孜 朗

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、組合員の皆様及び関係各位におかれましては当組合の事業に対しまして、格段の御支援御指導並びに御協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、ロシアによるウクライナ侵攻に加え、イスラエル・パレスチナ問題が激化し、国際情勢に不安を残す出来事が続きました。

酪農を取り巻く環境は、昨年8月に飲用向けの値上げが行われ、国などから新たな支援策も出てきているものの、資材費や飼料費などの高騰が止まらず、酪農経営への影響は未だ厳しい状況です。

そのような中、当組合では、昨年7月に役員改選を行い新執行部体制での運営がスタートしました。国・県・(一社)家畜改良事業団、熊本県酪連、各会員組

合のご協力を得ながら毎月の立会検定を中心に、乳牛の改良や酪農経営の改善などに取り組んでおります。県内でも7割の方が牛群検定に加入されており、検定農家と非検定農家の乳量を比較すると1頭当たり年間約2,000kgの差があります。酪農家戸数および検定農家戸数は減少の一途を辿っているものの、酪農家戸数に対する検定加入率は毎年上昇していることから、牛群検定の優位性は顕著に見られます。

非検定農家の方は、検定料金が6カ月間無料になるお試し検定を活用した加入をぜひご検討ください。

なお、通常検定は夕・朝の2回立会が必要ですが、毎月夕・朝交互に1回のみ立会で済むAT検定法もあり、今年度もATタイマー設置費用に対する3万円助成を実施しております。

最後になりますが、牛群検定を通じて得られる各種データが酪農家の経営改善による安定につながるよう、今後とも関係団体の御指導を受けながら事業を進めてまいります。また、新型コロナの影響によって開催できずいた「飼養管理技術セミナー」を2月に予定しておりますので、多くのご参加をお待ちしております。

年頭にあたり、酪農家・検定組合員並びに関係者の皆様にとって幸多き年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。